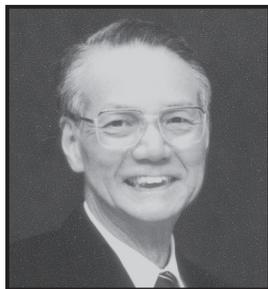


名誉会員追悼



故 名誉会員 森 一美 先生

社団法人日本鉄鋼協会 名誉会員、名古屋大学名誉教授、工学博士 森 一美 先生は、平成23年7月15日ご逝去されました。享年86歳。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は、昭和22年9月東京帝国大学第二工学部冶金学科をご卒業後、東京大学助手を経て、昭和26年11月茨城大学講師、昭和28年4月助教授、昭和37年3月教授に昇任されました。昭和39年4月に名古屋大学工学部鉄鋼工学科教授に就任され、溶融体精錬工学講座、昭和57年金属学科鉄冶金学講座、昭和62年同学科化学冶金学講座を担当されました。昭和63年3月に名古屋大学を定年によりご退官、昭和63年4月名古屋大学名誉教授の称号を授与されました、また、昭和63年4月から平成5年3月まで日本鋼管(株)顧問を務められました。

この間、先生は、製鋼反応に関して物理化学及びプロセス工学の両面から数多くの先駆的、独創的研究を行い、当該分野の学問の進歩と技術開発の基礎の確立に大きく貢献されるとともに、これらの研究と教育を通して、多くの研究者及び技術者の育成に尽力されました。初期の研究としては、電気伝導度の系統的測定により溶融スラグの本性を解明し、さらに独自の理論的考察と実験に基づいてスラグ塩基度の新しい尺度を提唱されました。これらの画期的な業績に対し、昭和28、36年に俵論文賞(当時俵賞)を受賞されました。

その後、従来ほとんど未開拓のまま残されていた速度論の立場からの研究の重要性を強く認識され、ガス-溶融金属間反応、固体-溶鉄間反応、スラグ-溶融金属間反応などについて律速機構を解明し、反応モデルを構築されました。また、鉄凝固時のCO気孔生成およびそれがマクロ偏析に及ぼす影響、CO気孔生成開始の臨界条件の解明など、鉄の凝固現象の基礎の確立に寄与されました。これらの優れたご研究に対して昭和48、49年に俵論文賞が授与されました。さらに、製鋼を含む金属精錬プロセスにおいて基本的に重要なガス吹込み操作に関する基礎研究をいち早く取り上げ、溶融金属中の気泡生成と分散挙動、高流量のガス吹込みにおけるバブリング・ジェットング現象、スラグ-溶融金属間物質移動速度に及ぼすガス吹込みの影響などについて、実験と理論解析を行い、ガス吹込み精錬プロセス工学の確立に大きく貢献されました。

これらの先駆的な優れた研究業績に対して、本会より西山記念賞(昭和47年)、西山賞(平成3年)、日本金属学会より谷川・ハリス賞(昭和53年)が授与されました。また、平成4年に本会名誉会員、平成3年に日本金属学会名誉員の称号を授与され、さらに平成15年には瑞宝中綬章を授与されておられます。さらに、先生は、日本鉄鋼協会理事、同副会長、学術審議会専門委員、鉄鋼基礎共同研究会融体精錬反応部会長、日本・ドイツセミナー組織委員会委員長などの要職を務められ、学術及び本会事業の発展に寄与されました。

先生が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績に感謝し、会員一同衷心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成2011年10月

日本鉄鋼協会 会長 友田 陽